

二十年程前、私の車にまだナビが無かった。浜松市の中田島砂丘へ行きかけた。高速代が往復で約一万円……。二五七号線を選んだ。

ある日曜日、出発した。

二時間二十分で中田島砂丘に着いた。

砂丘はいい。心が洗われるようだ。涯しなく海へと続く。海に向こうに夢の世界がある。

心行くまで約一時間滞在。

帰り道、二五七号線へ出ようとしていた。走ることに三十分。東京方面への標識……。間違えている……。田舎道、道路におじいさんがいた。道を尋ねると、難しいからそこまで行ってやると車に乗り込んだ。三十分程走って二五七号線の標識が見えた。そのおじいさんは近くのバス停で降りた。先程のところまで帰るのにバス代がいると思い、些少の金を差し出した。

「そんなものもらったら、道を教えたことにならんと怒ったように拒否した。

一生、忘れることのない中田島砂丘である。